

# “人”の事業は「人づくり」が基本、 人づくりの仕組み武器に ホテル業界で事業を拡大していく

## 長谷川ホテル&リゾート(株)

代表取締役社長 **阿部 夏樹 氏**

長谷川ホテル&リゾートは2016年10月、第一号ホテルとしてキャビン型ホテル「ワイズキャビン 横浜関内」を開業しました。おかげさまでさっそく多くのお客様にご宿泊いただき、高い評価をいただいております。

そして、2017年の夏には大阪・道頓堀にキャビンスタイルの施設を、秋には尼ヶ崎、新大阪にそれぞれ約150室の新規ホテルを開業し、さらにその先にはキャビン型・宿泊主体型・リゾート型のホテルを少なくとも11軒計画しています。もちろん、今後もさらにその計画数は増やしていく予定です。

長谷川ホテル&リゾートの親会社である長谷川トラストグループの代表を務める長谷川 芳博は、これまで長谷川ホールディングスグループとしてハウスクリーニングや靴のリペア事業、介護事業、保育事業などすべて“人”にかかわる事業を展開してきました。同グループの売上高（連結）は今期360億円を超え、20期連続増収を続けています。

どれも後発での事業参入だったのですが、なぜ、その中で同グループが着実に成長することができたのか。この力強い成長を支えてきたのは同グループが持っていた“人材教育”の仕組みでした。ホテル事業も“人”が中心にある事業ですので、その強みは生かされると考えています。

だからこそ、長谷川ホテル&リゾートのホテルブランド「Y's (ワイズ)」には、You's=「あなたのための」という思いを込めました。これは、ホテル事業を通じ、オーナー含むすべてのステークホルダーのための幸せを創出することを目指す、私たちの理念でもあります。

また、ホテルはただ宿泊するだけではなく、家族のふれあ

いや、地域、文化、出会い、コミュニティなどにつながる新しい第3の拠点となることを目指しています。みなさまに新しい喜びを生む場所としてのホテルを提供してまいりたいと考えております。

長谷川ホテル&リゾートが掲げているミッションに「古い価値観を壊し、新しい常識へ」というものがあります。ホテル業界のベンチャー企業として、既存の価値観にとらわれず、新しい常識を確立していくことで、日本における観光ビジネスに革新をもたらしていきたいという思いがそこにはあります。

今後、「ワイズホテル」ブランドを2020年までに30施設、年間売上高100億円を目標に全国展開してまいります。出店エリアにおける市場ニーズに合わせ、「キャビンホテル」「ビジネスホテル」「リゾートホテル」のうち、どの業態がふさわしいかを見定め、エリアNo.1のホテルを実現したいと考えています。「ワイズホテル」はチェーンホテルでありながら、どのホテルにおいても地域やスタッフの個性を生かし、バラエティーあふれるホテルとしてそれぞれの地域に根ざしていきたい所存です。

さらに、「リゾートホテル」においては、高齢化や地域格差が広がる日本の現状を鑑み、アクティブシニアのための“スモールリゾートビレッジ化”や地域スタッフの雇用促進まで視野に入れていきます。

後発としてのホテル事業への参入は大きなチャレンジではありますが、グループの強みを生かし、力強い展開を目指してまいります。これからの長谷川ホテル&リゾートを、ぜひ温かく見守っていただければと思います。

### Natsuki ABE

栃木県出身。1987年(株)リクルートコスモス(現(株)コスモスイニシア)に入社。都市開発事業に携わる。94年(株)ゼファー常務執行役員として、全国で住宅・ホテル・リゾート・商業施設の開発・運営・不動産証券化事業を行う。2013年(株)ユニマツトそよ風取締役、15年ユニマツトプレシヤ取締役として、沖縄でのホテルコンドミニアム分譲、開発事業に携わる。16年長谷川ホールディングス(株)に入社。同年長谷川ホテル&リゾート(株)代表取締役就任。